

富田林の自然

人と生きものがひびきあう
里山をめざして



No.12

2014年3月

富田林の自然を守る市民運動協議会

目 次

「自然と共生する社会の実現」に向けた、ひたむきな実践活動 浦 俊 樹	1
富田林の里山指標生物	2
カヤネズミからみた河川草地の保全 畠 佐代子	10
「里山の緑（北部部丘陵地）」の詳細調査 ～ H24 年度「自然環境保全活用調査その 12」報告書より抜粋～	14
協議会参加団体の活動報告 富田林の自然を守る会、金剛の自然環境を守り育てる会、竜泉里山クラブ、富田林勤労者山 岳会「嶽の会」、特定非営利活動法人 里山倶楽部、石川自然クラブ	31
2013 年度 協議会事業報告	34

表紙の写真

ウマノアシガタが咲き乱れる休耕田

奥の谷に池田と呼ばれる休耕田がある。ここでは年 3 回の定期的な草刈が行われている。毎年春になると一面にキンポウゲ（ウマノアシガタ）が咲き乱れ、私たちの目を楽しませてくれる。ここでは季節を変えて、ノアザミ、溝そばなどの群生も見られる。

「自然と共生する社会の実現」に向けた、ひたむきな実践活動

浦 俊樹

富田林市 産業環境部 理事兼みどり環境課長

「富田林の自然を守る市民運動協議会」の主な活動拠点となっております彼方(おちかた)地域の「奥の谷」は、瀧谷不動尊前の幹線道路から南へ農道を少し進んだところにありますが、はじめて活動に参加させていただいたときには、身近な場所でありながら、日頃の市街地の喧騒とはあまりにも異なる環境に驚き、何度か訪れる頃には、知らぬ間に自分の気持ちが癒されていることを知るようになりました。



我々が自然界・多様な生物からこうむる恩恵には、有用な資源や森林等による環境の制御、生命の基盤となる土壌形成や光合成、あるいは自然に根ざした固有の文化への影響など数多くあります。これらは地球の悠久の歴史のなかで育まれてきたかけがえのないものであり、将来の世代にも継承されるべきものと考えます。しかし、自然界の環境は、温室効果ガスの濃度の増加、過剰な開発行為や外来生物の持ち込み、里地・里山の放置による荒廃などにより、望ましい状態にあるとは言えないようです。

このような状況を受け、「生物の多様性の保全及び持続可能な利用」についての基本原則を定め、国、地方公共団体、民間団体等の各主体の責務を明らかにし、生物多様性国家戦略の策定、その他、施策の基本事項を定め、総合的かつ計画的に各種施策を推進し、「自然と共生する社会の実現」を図り、あわせて地球環境の保全に寄与することを目的とした「生物多様性基本法」が平成20年6月に施行されました。地方公共団体には「生物多様性地域戦略」策定の努力義務が規定され、責務として、地域の自然的・社会的条件に応じた、きめ細かな施策を設定し実施することとされています。

「富田林の自然を守る市民運動協議会」では、環境保全・文化的行事・自然観察や調査活動を実践され、同時に多くの人たちに活動の機会を提供されるなど、その行動力には敬意を表するところであり、前記の法により地方公共団体の責務とされた、地域の条件に応じたきめ細かな施策を実施するためには、市民、事業者、市民団体等の各主体との連携が不可欠となりますことから、当協議会の存在・活動が今後、より重要視されるものと思われま

す。いままで実践されてきた活動もさることながら、今後も果たすべき大きなテーマであります。「自然と共生する社会の実現」に向け、邁進されることを願ってやみません。

富田林の里山指標生物

(公益社団法人)大阪自然環境保全協会は2013年に「里山指標生物調査マニュアル」を公表し、大阪府下で里山に関わって活動している団体に「里山指標生物調査」を呼びかけています。富田林の自然を守る会もこの呼びかけにこたえて調査を実施する予定です。それに先駆け当会が過去10年間(2004年～2013年)に富田林市内で確認した生物を、このマニュアルに基づいて紹介します。

動物

哺乳類



121005 奥の谷
カヤネズミの巣



121005 奥の谷
カヤネズミの赤ちゃん

哺乳類は写真の2種のほかホンドギツネ、ニホンジカ、ニホンリスの3種を含む5種があげられていますが、富田林で確認しているのはこの2種だけです。

カヤネズミは奥の谷のほか石川河川敷でも確認しています。写真の赤ちゃんは水田の稲株に巣を作っていたもので、稲刈りのとき発見しました。数株刈り残しておきましたが、親が子供を連れてどこかに引っ越ししたのでしょうか、翌日にはいなくなっていました。

ノウサギの糞は草地でよく見かけます。姿を見ることはほとんどないので確認していませんが、ニホンノウサギと思われます。



110311 奥の谷
ノウサギの糞



110318 奥の谷
ノウサギの食痕

鳥類

鳥類は写真の7種のほかアオゲラ、キジ、キビタキを含む10種があげられています。ここにあげた7種は当協議会が2009年より錦織公園で毎年実施している野鳥観察会で確認したものです(写真は全てこの観察会の講師をしていた上村賢氏が撮影されたものです)。

写真はありませんがキジは石川や南原(彼方)で確認しています。



110212 錦織公園
アオジ



080610 錦織公園

ウグイス



080610 錦織公園

オオタカ



050327 錦織公園

シメ



111110 佐備

ホオジロ



060121 錦織公園

モズ



130104 錦織公園

ヤマガラ

爬虫類・両生類

両生類・爬虫類は写真の6種のほかカスミサンショウオ、ナゴヤダルマガエル、ニホンイシガメ、ヤマアカガエルの4種を含む10種があげられています。

奥の谷の放棄田を利用した水の生き物池には2月中下旬になるとニホンアカガエルの卵塊が、5月にはシュレーゲルアオガエルの卵塊が多数みられます。6月、田植えが終わった水田にはトノサマガエルが産卵します。



110602 佐備

アカハライモリ



081128 奥の谷

ニホンカナヘビ



110520 奥の谷

シュレーゲルアオガエル



100827 奥の谷

トノサマガエル



090623 奥の谷

トノサマガエルの卵塊



080526 奥の谷

シュレーゲルアオガエルの卵塊



060418 奥の谷
ニホンアカガエル



120208 奥の谷
ニホンアカガエルの卵塊



121021 奥の谷
ヤマカガシ

昆虫類

昆虫類は写真の7種のほかオオムラサキ、ギフチョウ、ギンヤンマ、ヒメボタル、ヘイケボタル、ミズスマシ、アキアカネ、タガメの8種を含む15種があげられています。

写真はありませんが、奥の谷でオオムラサキ(幼虫)、ギンヤンマ、ヘイケボタルを、中野町の竹林でヒメボタルを確認しています。

中野町の竹林や奥の谷では竹のチップや刈り草の堆肥の中に無数のカブトムシの幼虫が発生します。

ベニイトトンボは石川自然ゾーンの人口ワンドで2006年に確認しましたが、最近は見られていません。



120521 錦織公園
アカシジミ



070609 奥の谷
ゲンジボタル



110723 奥の谷
カブトムシ



140517 中野町
カブトムシ幼虫



090703 奥の谷
チョウトンボ



950819 石川
トノサマバッタ



060906 石川
ベニイトトンボ



120427 奥の谷
ツマキチョウ

植物

木本

木本は写真の6種のほかアカマツ、イヌビワ、エゴノキ、クロバイ、クロモジ、コシアブラ、タカノツメ、ナラガシワ、ネムノキ、ハナイカダ、ハンノキ、ホウノキ、マルバヤナギ、リョウブの14種を含む20種があげています。

写真はありますが、奥の谷でアカマツ、イヌビワ、クロバイ、ネムノキ、ハンノキを甘南備でリョウブを確認しています。



140619 横山
アカメガシワ



071125 春日神社
コジイ



050409 奥の谷
コバノミツバツツジ



050524 奥の谷
マルバウツギ



130419 奥の谷
ヤマツツジ



070623 錦織公園
ヤマモモ

草本

草本は写真の35種のほかアキチョウジ、オミナエシ、カワラナデシコ、キキョウ、センブリの5種を含む40種があげています。この5種は富田林では確認していません。

確認した35種のうちウバユリは甘南備で、ギンランは錦織公園および甘南備で、オオバノトンボソウは錦織公園および奥の谷で、クサノオウは石川および甘南備で、ホタルブクロは甘南備でコモウセンゴケは錦織公園で、その他の29種は奥の谷で確認しています。



041120 奥の谷
アキノタムラソウ



120608 奥の谷
ウツボグサ



130726 甘南備
ウバユリ



130427 奥の谷
ウマノアシガタ



120423 奥の谷
ウラシマソウ



070721 錦織公園
オオバノトンボソウ



130628 奥の谷
オカトラノオ



060909 奥の谷
ガガイモ



130413 嶽山
カキドオシ



060404 奥の谷
カンサイタンポポ



060909 奥の谷
キンミズヒキ



140510 奥の谷
キンラン



130507 錦織公園
ギンラン



120524 水越
クサノオウ



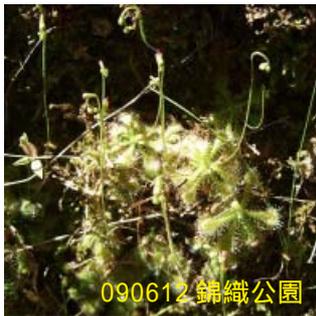
121025 甘南備
ゲンノショウコ



1080329 奥の谷
コオニタビラコ



040911 奥の谷
コナギ



090612 錦織公園
コモウセンゴケ



070623 錦織公園
ササユリ



090328 奥の谷
シュンラン



120405 奥の谷
ショウジョウバカマ



八エドクソウ



070925 奥の谷
ツリガネニンジン



071130 嶽山
ツルリンドウ



090620 奥の谷
八エドクソウ



140918 若松町
ヒガンバナ



121025 甘南備
ヒヨドリバナ



140707 小吹
ホタルブクロ



040410 彼方
ムラサキケマン



090329 奥の谷
ムラササギゴケ



121025 甘南備
ヤクシソウ



111009 奥の谷
ヤマジノホトトギス



090918 奥の谷
ヨメナ



011028 奥の谷
リンドウ



990918 奥の谷
ワレモコウ

「里山指標生物調査マニュアル」では哺乳類5種、鳥類10種、爬虫類・両生類10種、昆虫類15種、木本20種、草本40種の合計100種の生物を里山指標生物として指定されています。このうち富田林の自然を守る会が市内で確認している生物は、動物では哺乳類2種、鳥類8種、爬虫類・両生類6種、昆虫類12種、植物では木本12種、草本35種の合計75種でした。これらの評価については大阪自然環境保全協会が大阪府下で実施している調査に基づいて検討されるでしょうが、富田林にも多くの里山の生き物が生息していることを確認することができました。今回確認できなかった26種についてはさらに詳しい調査が必要と思われます。

過去10年間(2004年～2013年)に富田林の自然を守る会が
富田林市内で確認した里山指標生物

里山の指標生物チェックリスト(大阪自然環境保全協会)

植物・草本40種			植物・木本20種			哺乳類5種		
No.	種名	チェック	No.	種名	チェック	No.	種名	チェック
1	アキチヨウジ		1	アカマツ	○	1	カヤネズミ	○
2	アキノタムラソウ	○	2	アカメガシワ	○	2	キツネ	
3	ウツボグサ	○	3	イヌビワ	○	3	シカ	
4	ウバユリ	○	4	エゴノキ		4	ニホンリス	
5	ウマノアシガタ	○	5	クロバイ	○	5	ノウサギ	○
6	ウラシマソウ	○	6	クロモジ				
7	オオバノトンボソウ	○	7	コシアブラ				
8	オカトラノオ	○	8	コジイ	○			
9	オミナエシ		9	コバノミツバツツジ	○	鳥類10種		
10	ガガイモ	○	10	タカノツメ		No.	種名	チェック
11	カキドオシ	○	11	ナラガシワ		1	アオゲラ	
12	カワラナデシコ		12	ネムノキ	○	2	アオジ	○
13	カンサイタンポポ	○	13	ハナイカダ		3	ウグイス	○
14	キキョウ		14	ハンノキ	○	4	オオタカ	○
15	キンミズヒキ	○	15	ホオノキ		5	キジ	○
16	キンラン		16	マルバウツギ	○	6	キビタキ	
17	ギンラン	○	17	マルバヤナギ		7	シメ	○
18	クサノオウ	○	18	ヤマツツジ	○	8	ホオジロ	○
19	ゲンノショウコ	○	19	ヤマモモ	○	9	モズ	○
20	コオニタビラコ	○	20	リョウブ	○	10	ヤマガラ	○
21	コナギ	○						
22	ササユリ	○						
23	シュンラン	○						
24	ショウジョウバカマ	○	昆虫類15種			両生類・爬虫類10種		
25	センブリ		No.	種名	チェック	No.	種名	チェック
26	チゴユリ		1	アカシジミ類	○	1	アカハライモリ	○
27	ツリガネニンジン	○	2	オオムラサキ	○	2	カスミサンショウウオ	
28	ツルリンドウ	○	3	カブトムシ	○	3	カナヘビ	○
29	ハエドクソウ	○	4	ギフチョウ		4	シュレーゲルアオガエル	○
30	ヒガンバナ	○	5	ギンヤンマ	○	5	ダルマガエル	
31	ヒヨドリバナ	○	6	ゲンジボタル	○	6	トノサマガエル	○
32	ホタルブクロ	○	7	チョウトンボ	○	7	ニホンアカガエル	○
33	ホトトギス類	○	8	トノサマバッタ	○	8	ニホンイシガメ	
34	ムラサキケマン	○	9	ヒメボタル	○	9	ヤマアカガエル	
35	ムラサキサギゴケ	○	10	ヘイケボタル	○	10	ヤマカガシ	○
36	モウセンゴケ類	○	11	ミズスマシ				
37	ヤクシソウ	○	12	ベニイトトンボ	○			
38	ヨメナ	○	13	ツマキチョウ	○			
39	リンドウ	○	14	アキアカネ	○			
40	ワレモコウ	○	15	タガメ				

確認した種数(○が確認した種)

哺乳類：2種、鳥類：8種、爬虫類・両生類：6種、昆虫類：12種、木本：12種、
草本：35種 合計75種

カヤネズミからみた河川草地の保全

畠 佐代子

(公益社団法人大阪自然環境保全協会草地生態系研究会代表、全国カヤネズミ・ネットワーク代表)

はじめに

河川敷によく見られる、ヨシやオギなどの大型のイネ科植物は、まとめて「茅(カヤ)」と総称されます。茅は古来、屋根を葺く材料や家畜の飼料、神事で用いられる茅の輪や雅楽器の部材など、人々の生活や文化と深く関わってきました。しかし、生活が変化して茅の利用価値が失われ、茅が生育する河川草地(カヤ原)は無価値な場所とみなされて、公園やグラウンドなどに作り替えられました。さらに、河川改修で冠水しにくくなった河川敷には、湿性の土壌を好むヨシやオギに代わって、乾いた土壌を好むクズやカナムグラ、外来種のセイバンモロコシなどが増えています。河川草地は、多くの野生動物にめぐらやエサや繁殖場所を提供していますが、草地の面積の減少と質の悪化とともに、これらの生き物も絶滅の危機に直面しています。「大阪府レッドリスト2014」では、河川の低湿地(規模の大きいヨシ原など)が貴重な生態系を有する地域として「Aランク」(大阪府内において消失の危機に瀕している環境)に選定されました。大阪の生物多様性保全の観点から、河川草地は決して見過ごすことのできない場所です。

カヤ原の小さな住人、カヤネズミ

カヤネズミ(*Micromys minutus*)は、河川草地の代表的な小動物です。富田林市を流れる石川にも生息しています。本種は日本で一番小さいネズミで、体の大きさは大人の親指サイズ(約6cm)、体重は500円玉1枚分(7~8g)です(写真1)。背中の中毛は、夏毛はオレンジ色がかった明るい茶色、冬毛は焦げ茶色です。おなかの毛は真っ白です。耳は小さく、顔の横に沿うようについていて、草むらを移動するのにじゃまにならないようになっています。

カヤネズミは世界でも珍しい、草の上に巣を作るネズミです。なぜ草の上に巣を作ることができるかというと、まず後ろ足に特徴があります。カヤネズミの後ろ足は人間の手のように開いて物をつかめます。さらに長い尻尾をくるんと草の茎に巻きつけ、後ろ足との三点支持で、ぶらんと草にぶら下がることができます。彼らはこれらの機能を活用して植物の茎を登り、オギやヨシなどの葉を裂いて球形の巣を編み、その中で子育てをします(写真2)。カヤ原の草丈が人間の大人の背丈近くになると、巣が見つかり始めます。近畿地方では6~7月と10月に出産のピークがあります。1回に生まれる子どもの数は1~8頭、平均4~5頭です。出産の近づいたメスは2~3個の巣を作り、その中の1巣に出産します。残りの巣は母親の休息場所として使われます。やがて冬が近づくと繁殖を終えて、乾いた日当たりの良い場所に枯れ残ったチガヤやススキの株や、地上に積



写真1 カヤネズミ



写真2 カヤネズミと巣

もった枯れ草の中などに巣を作って冬を越します。カヤ原にはアカネズミやハタネズミ、モグラなどもすんでいます。これらの仲間は地面に穴を掘るのが得意です。カヤネズミはこれらの隣人が掘った穴の中で寒い冬を過ごすこともあるようです。冬眠はしません。

カヤネズミは生態系ピラミッドの下位に位置する生き物なので、いろいろな生き物に食べられます。代表的な天敵はコミミズクやモズなどの小型猛禽類とアオダイショウなどのヘビです。ヘビは巣の中に潜りこんで赤ちゃんを一頭残らず丸飲みにしてしまいます。コミミズクやモズは大人のカヤネズミを狙います。カヤネズミの主な食べ物は、エノコログサのようなイネ科の草のタネや、バッタやイナゴなどの昆虫です。野外での寿命は半年～1年程度と推定されます。

昭和30年代頃までは、カヤネズミは川原で普通に見られるネズミでした。しかし河川改修でカヤ原がなくなってしまったり、外来種やクズなどが繁茂して、彼らが営巣しづらい植生に変わってきています。その結果、現在カヤネズミの生息が確認されている1都2府38県のうち、1都2府28県のレッドデータブック(RDB)に掲載されるほどに、その数を減らされてしまいました。大阪府レッドリスト2014では準絶滅危惧に選定されています。

カヤネズミからみた河川草地の重要性

日本の河川は国土に網の目のように広がり、一級河川に限っても、河川延長は約9万kmにおよびます。山から海へと流れ下る河川は、個体群の個々の生息地をつなぐ「緑の回廊」として機能しています。特に都市部では、市街化によって生息場所を狭められた野生動物の貴重なハビタットとして、生物多様性保全に重要な役割を果たしています。

河川の氾濫源では、梅雨や台風による出水で植生が定期的に攪乱されてカヤ原が自然に維持されるため、カヤネズミの主要な生息地となっています。河川環境においては、水辺からやや離れた草丈の高いイネ科草地、例えば高水敷のオギ群落や、堤防法面のススキ・チガヤ群落などによく営巣します。巣作りに使われる植物(営巣植物)は、生息環境の植生によってさまざまですが、そのほとんどはイネ科植物です。中でもオギは一年を通じて最もよく利用されます。ヨシも利用されますが、オギに比べると利用頻度は高くありません。ヨシはオギに比べると葉が堅い上に、葉と葉の重なりが少ないので、巣作りに使いにくいようです。オギの草丈がまだ低い春には、カモジグサやネズミムギなどの一年生のイネ科植物や、アゼナルコスゲなどの大型のスゲ類も利用されます。また、定期的な刈り取りが行われる堤防では、エノコログサやチガヤも利用されます。ただし、オギの草丈が伸びてくると、オギを利用するようになります。

本種は上述のような特定の植物を営巣場所に利用するため、生育環境の変化(悪化)の影響を受けやすい種といえるでしょう。このことから、良好な河川環境の「指標種」(環境の良し悪しをはかる物差しに使われる種)とされています。急速な減少が危惧されるカヤネズミの生息場所を保護することは、本種食物連鎖につらなる生態系の上位種の命を守るだけでなく、オオヨシキリやセッカ、ツマグロキチョウなどの草原性の鳥やチョウ類にとってもよい繁殖地となるので、河川における生物多様性を高めることが期待できます。

石川におけるカヤネズミの生息地保全

ご存じのように、石川河川公園では長さ1.6kmの「自然ゾーン」(約43ha)で、自然環境の保全と復元の取り組みが行われています。カヤネズミの生息環境の保全も取り組みの一環として行われています。2013年10月、石川自然クラブ並びに石川河川公園事務所のご協力のもと、草地生態系研究会を開



写真3. オギの播種と根茎の植え付けがされた盛り土(自然ゾーンA地区)

催し、現地をご案内いただきました。それを踏まえて、石川におけるカヤネズミの生息地の保全の観点から気づいた点を述べます。

自然ゾーンA 地区について

自然ゾーンA地区北端(羽曳野大橋上流右岸)の一角では、「カヤネズミプロジェクト」の取り組みとして、営巣場所の保全のために2箇所の盛り土にオギの播種と根茎の植え付けが行われました(写真3)。石川でのこれまでの調査で、主にオギの巣が見つかっていますので、オギ群落を出来るだけ保全するという計画は良いと思います。しかし、盛り土の植生はセイタカアワダチソウが目立ち、オギは盛り土の下部にみられたものの、上部はオギの生育が確認できませんでした。その原因として、水分条件が合っていないことが考えられます。一般にオギの生育には、年1回程度、地表が冠水するくらいの環境が適しているとされます。次回オギの植え付けを行う場合は、そうした条件に合う場所を選ぶとよいでしょう。

また、盛り土の上流側にオギとセイタカヨシを含む草地が2カ所刈り残されていました(写真4)。2012年には、それぞれの草地でオギの巣が1つずつ見つかっていますが、今回私たちが探した時は確認できませんでした。これらの草地には、小規模なオギ群落があるものの、カヤネズミの個体群を維持するには狭いように思われました。カヤネズミの行動圏は約20m四方と推定され、複数の個体が生息するためには、その数倍の広さが必要と考えられます。改善策としては、草地を島状に残すのではなく、これらの草地を含んだひとまとまりの草地を残すことで、生息面積が確保できるでしょう。「オギを含む、ある程度まとまった草地面積の確保」が大切です。

もう1つ気になったのは、2カ所の草地の周辺が、きれいに刈り取られていたことです。例年9月末～10月上旬に全面刈りが行われるそうですが、この時期はちょうどカヤネズミの繁殖期のピークにあたります。また、オギの地上部にはまだ栄養が蓄えられていますので、この時期の刈り取りはオギの生育に良くありません。カヤネズミの繁殖がピークを過ぎ、オギの地上部が枯死する11月下旬以降であれば、カヤネズミにもオギにも影響は少なくなります。刈り取りの際は、カヤネズミが安全に避難できるように、一度に全面を刈るのではなく、何度かにわけて刈り取りを行って下さい。



写真4 . 刈り残されたオギ草地
(自然ゾーンA地区)

自然ゾーンB 地区について

自然ゾーンB地区-4(河南橋～喜志大橋)の整備区画は、移植されたオギの根茎が定着し、まとまったオギ群落が形成されていました(写真5)。現在カヤネズミはいないようですが、営巣場所としてはとてもよい環境なので、可能なら周辺の生息場所からカヤネズミが入り込みやすいように、草地をつないで下さい。具体的には、堤防または川の土手と整備区画をつなぐ形で、幅1m程度の草地をベルト状に維持することを提案します(写真6)。グリーンベルトは、オギでなくてもかまいません。体が隠れる程度の草丈があれば、カヤネズミは通路として使



写真5 . 整備区画に形成されたオギ群落
(自然ゾーンB地区-4)

います。整備区画の下流に位置する人口ワンドの周辺には、まとまったオギ群落があります。グリーンベルトがうまく機能すれば、そこからカヤネズミがやってきてくれるでしょう。

カヤネズミは、河川草地に均一にいるわけではなく、広い範囲の中に、ぽつぽつと生息しています。彼らは鳥や飛翔性の昆虫のように空を飛ぶことはできません。また川を泳いで渡ることもしませんので、個体群が孤立しないように、それぞれの生息場所の間の植生がきちんとつながっていることが重要です。



写真 6 . 川沿いに刈り残されたグリーンベルト
(自然ゾーン A 地区上流)

参考文献

- 大阪府 (2014) 大阪府レッドリスト 2014 : 大阪府
田淵武夫 (2009) 守りたい石川の自然 : おおさかの住民と自治 2009 年 8 月号 pp15-18
畠佐代子 (2009) 河川生態系の保全を考える : 河川レビュー 38 巻 1 号 pp34-40
畠佐代子 (2014) カヤネズミの本 - カヤネズミ博士のフィールドワーク報告 : 世界思想社

「里山の緑（北部丘陵地）」の詳細調査 ～H25 年度「自然環境保全活用調査その 1 2」報告書より抜粋～

1. 緑の基本計画における「里山の緑（北部丘陵地）」の位置づけ

平成 19 年度に策定された「富田林市緑の基本計画」では、本調査の対象地である「丘陵斜面林の緑（北部丘陵地）」は緑の将来像で主に「緑地ゾーン」に区分され、富田林の環境の骨格を形成する緑として位置づけられている。

「富田林市緑の基本計画」より抜粋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

■緑の評価と課題の整理

＜丘陵斜面林の緑＞

（前略）南東部の丘陵地は比較的緑が残されていますが、北西部の丘陵地の緑は市街地整備によって公園や社寺林、限定的な斜面緑地等を残すばかりとなっています。本来、ここには谷地田が入り込み、ため池等とあいまって良好な里山の緑を形成していたところです。このような丘陵地の斜面林は、市街地に近接した富田林市の身近な緑として維持・改善することで、その価値をさらに活かしていくことが期待されます。

■ゾーン別の緑の基本方針（緑地ゾーン）

石川より西側では、広域公園である府営錦織公園と新堂地区のゴルフ場及び PL 教団周辺の緑地に（中略）あたるゾーンです。里山の緑の保全・管理や活用を図っていくゾーンとします。とくに、府営錦織公園とその西側の緑地、お亀石古墳周辺、美具久留御魂神社周辺は羽曳野丘陵の中でわずかにのこされた貴重な自然であることから、これらの緑地の保全に努めます。

■環境保全系統の緑の配置方針

○富田林市の自然環境を特徴づける緑

大阪層群からなる羽曳野丘陵の緑は、谷地田、ため池等と一体となった富田林市に特徴的な緑であり、都市生活に身近な緑として重要な緑です。

■防災系統の緑の配置方針

○延焼遮断機能を有する緑

丘陵地の斜面林や段丘崖の緑、まとまった広がりをもつ農地や市街化区域内の生産緑地（中略）等はいずれも市街地の内側や外縁部で延焼の緩和に寄与します。

■景観構成系統の配置方針

○富田林の自然景観を特徴づける緑

既成市街地と新市街地を隔てる丘陵斜面林の緑は、ため池と一体となつてかつての里山の名残りの景観を呈し、景観資源となります。

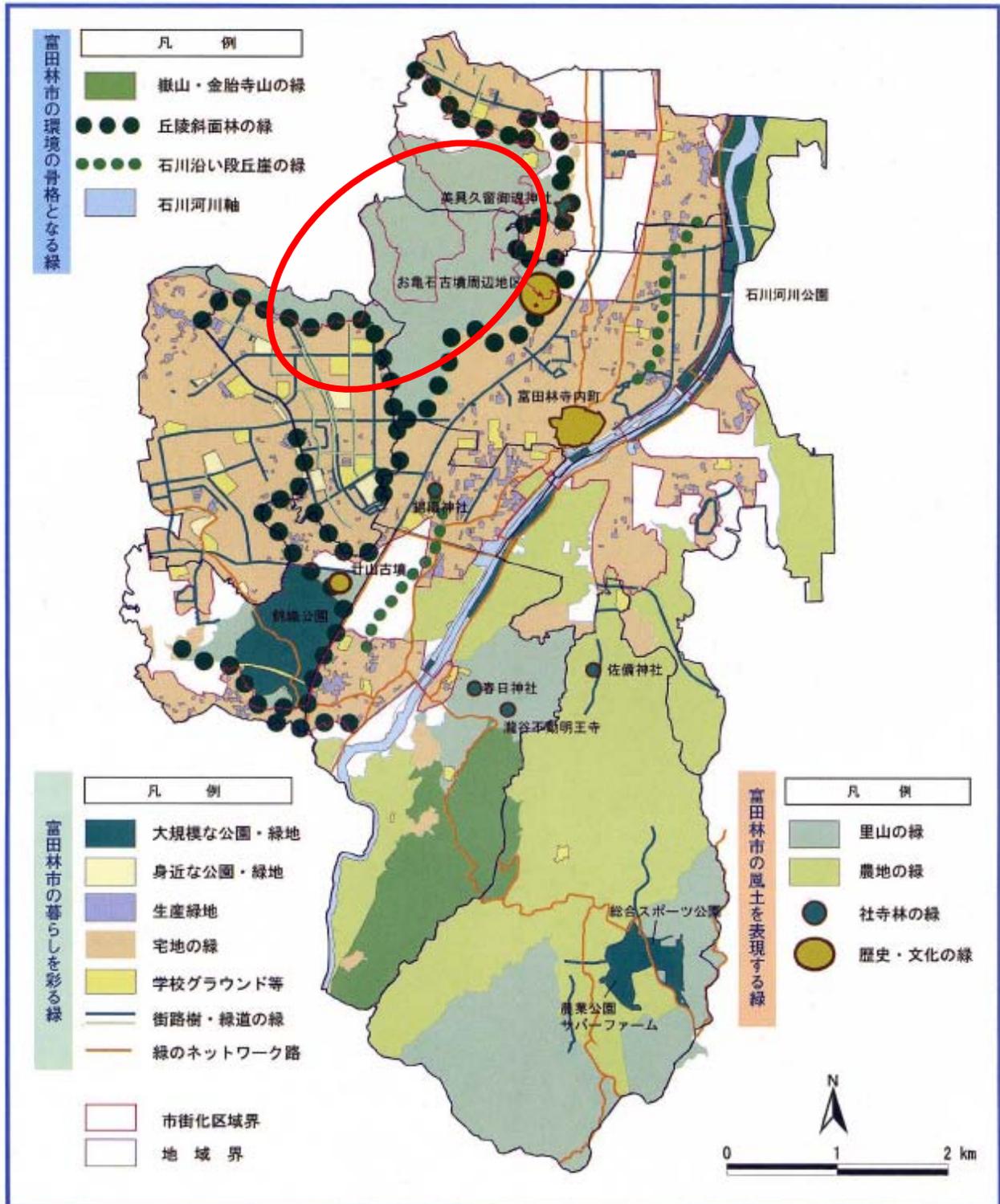
■富田林市の環境の骨格を形成する緑の保全と育成

○新市街地を縁取る緑の保全：羽曳野丘陵斜面林

かつての里山の丘陵上部が宅地開発された後に残った斜面林であり、新市街地と既成市街地を隔てる緩衝林として景観及び環境保全の両面で重要な緑です。樹林はアカマツ林と竹林で構成されていますが、竹林が優先する傾向にあるため、今後は本来の里山林に転換していくような保全管理が必要です。また、斜面林と一体となったため池も多数存在することから、水辺の多様な自然も含めて保全・育成・活用を図ります。

<富田林市緑の基本計画「緑の将来像図」>

※「丘陵斜面林の緑（北部丘陵地）」は富田林市の“環境の骨格を形成する緑”に位置づけられている。



(3) 緑地の状況

① 北部1 (喜志・新堂周辺)

美具久留御魂神社の境内林は大阪府自然環境保全地域の特別地区に指定され、シイなどの照葉樹林が保存されているが、周辺部の雑木林や人工林にはかなりタケが侵入している。境内林の北側の辰池、星ヶ池は1997年に地域住民からの要望により、自然環境に配慮した整備を行った池で、水辺には比較的良好なヨシ原や草地が残されており、奥には小規模な農地が広がっている。しかしながらさらに奥の新池の周辺斜面は一面がクズに覆われた状況である。

<現地踏査> 調査日：H25年7月3日



○美具久留御魂神社の境内林は、樹齢200年前後のコジイ、ナナメノキ、アラカシ、サカキなどで構成されており、鳥居越しにこんもりした景観を見ることができる。



○神社の園路沿いは落ち葉等が清掃されて苔生した林床になっており、保全地域の周囲には標識が立てられている。

林床に見られたコ克蘭→





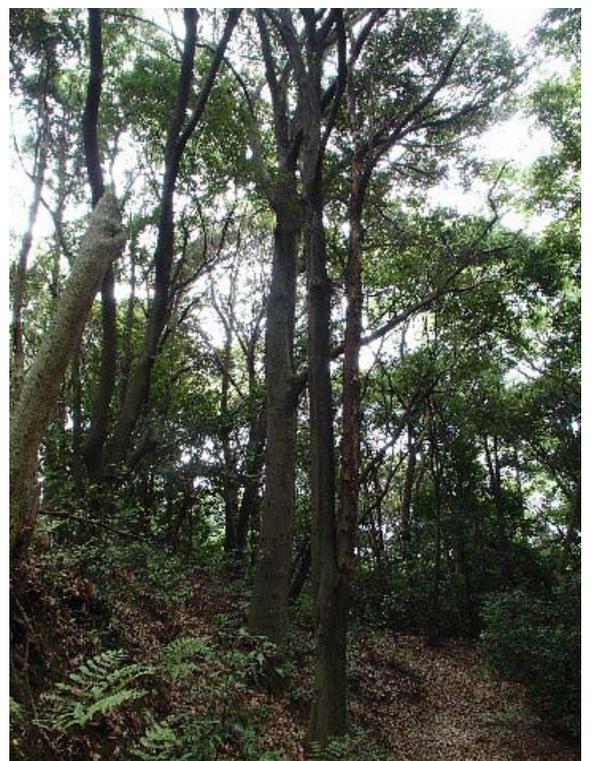
○保全地域の周囲は雑木林や人工林となっているが、かなりのタケが侵入しており、保全地域内に入り込んでいる箇所も見られた。



○境内林の頂上あたりには4基からなる古墳群があり、周辺は神域として注連縄が張られて、シイやアラカシなどの大木も多く見られる。



○本殿横には、祭事用の雄松（クロマツ）、雌松（アカマツ）が植栽されている。





○美具久留御魂神社から辰池への小道沿いには小規模な果樹園や用水路があり、市街地背後ののどかな田園風景となっている。



○北側の道路沿いから見た辰池。池の周囲には歩道があるが、現在は、関係者以外立入禁止になっている。



○道路沿いのため池群の紹介パネル（大阪府設置）があるが、支柱が折れて逆向きに倒れていた。



○池の周囲はコンクリート護岸ではなく土の自然護岸となっており、ガマやヨシなどの植生が見られる。
 周辺で見られたウツボグサ ↑



○星ヶ池の最上流部から北東を望む。



○星ヶ池の上流側には小規模な農地があり、水田や畑の耕作が行われている。



○農地所有者に、池堤の草刈りやアライグマの被害についてのお話を伺った。



○新池の堤体から農地と星ヶ池を望む。樹林地に囲まれ池の入口は関係者以外立入禁止のため隠れ里のような場所である。右側の樹林は美具久留御魂神社から続く雑木林。



○さらに上流側の新池の堤体にはシダレザクラが植栽されている。



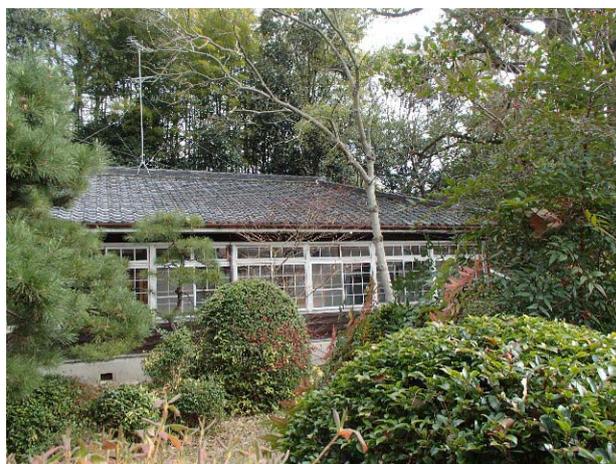
○星ヶ池の上流部には新池、ウサイ池、七廻り池、PL集水池と4つの池が続いている。写真は七廻り池で周囲のほとんどがクズに覆われた草地となっている。

③ 北部2 (桃花塾の里山林)

社会福祉法人「桃花塾」は、大正5(1916)年に創立された障害者福祉施設で、敷地内に立地する桃花塾本館と教室棟は、昭和初期の典型的な木造建造物として国の登録有形文化財の指定を受けている。その背後に広がる3.9haの里山林が林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業(事務局は大阪さともり地域協議会)」に採択され、同事業にもとづく里山管理作業が今年度11月より始まった。

現況はクヌギやコナラ、クスノキ、アラカシ、ヤマモモなどの大径木が目立つ雑木林で、広範囲に侵入していた竹林の大部分は調査時には伐採除去作業が行われ、チップパーも導入されてすっきりした林床となっていた。春にはショウジョウバカマやスミレなども見られ、林内の池には希少種が繁殖するなど、住宅地の中に島状に残された緑地としてたいへん貴重な里山林となっている。

<現地踏査> 調査日：H26年1月23日



○国指定の登録有形文化財の桃花塾本館および教室棟。周囲は庭園として管理されている。
(一般公開はされていない。)



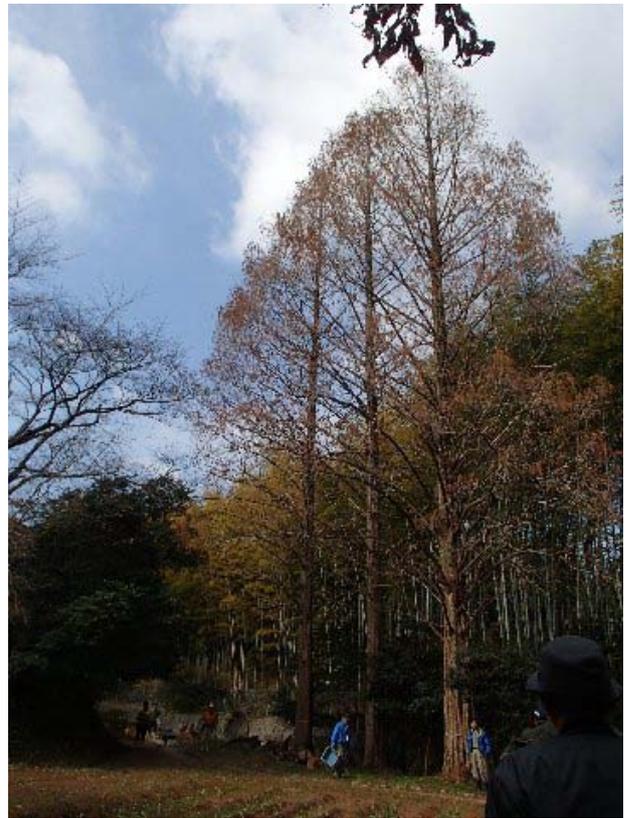
○創設時の理念を記した「人間立入禁止区域」の立札と「大阪さともり事業」の記念碑が立てられている。



○施設の管理担当者みなさんに敷地内を案内していただいた。



○クスノキ、アラカシ、ヤマモモなどの常緑樹が大径木となっているためボラティアでの里山利用がしにくい。



○かつて植えられたアベマキも大径木化しており、今後に伐採する予定とのこと。



○伐採したメタセコイヤ大木の根株



○竹林が伐採除去された林内は気持ちよく歩ける空間になっている。



○ところどころに残るアカマツが、かつての羽曳野丘陵のようすを偲ばせる。



○さとり事業で導入されたチッパー



○約 10 年前に導入した炭窯は使われていないが、今後の再開が検討されている。



○敷地北側に隣接する市管理の法面はヤブが伐採されている（手前）が、私有地は手入れがされていない（奥）。



○林内の崖地に見られたカワセミの巣



○林内にある池は、水利権がないため特に手入れをされていないが、希少な動植物の生息地として自然環境の保全が望まれている。



③ 南西部（廿山周辺）

現地は、東が国道 309 号、北が美原町木材団地、南が向陽台に囲まれ、周辺丘陵の開発造成後に残った小規模な斜面林である。狭い面積の中ではあるが、雑木林や人工林、ため池、畔草地などがモザイク状になっており、開発前の自然環境が残されている。

谷部が水田や畑、果樹園、造園用の植木圃場などに利用されていること、また道沿いはニュータウンの緑地になっていることから、周辺の草刈り管理が比較的よく行われているようで、意外にも、畔にはワレモコウやツリガネニンジン、道沿いの草地にはチガヤやノアザミなどが良好に生育している。丘陵開発地に残存する貴重な自然としてこの状態を保持していきたい環境である。

<現地踏査> 調査日：H25 年 6 月 12 日



○南側から見た対象の緑地。このあたりがもっともタケの侵入が見られる箇所である。山すそは造園用の植木圃場になっている。



○水が入られた谷部の水田。



○谷をはさんだ南側の向陽台では宅地造成が行われている。



○山すその店舗（閉店中）で、周囲にはワレモコウが今よりもっとたくさん見られたことなど自然環境についてお話を伺った。店舗の裏側には小面積の人工林がある。



○人工林の奥のため池。周囲は比較的明るい雑木林となっており、タケの侵入も今のところ見られない。



○池下の湿地にはイノシシのぬた場があり、おそらくタヌキの糞なども見られた。店舗でのヒアリングによると、イノシシはかつて周辺で飼っていたウリボウが逃げ出して成長した個体だとのこと。



○一部に竹林の繁茂も見られるが、造園圃場などの所有者などがある程度の管理を行っているようで、ヤブ状態には至っていない。



○向陽台住宅地北側の道沿い斜面緑地には、外来種のヒメジョオンやブタナのほかノアザミなど多く開花しており、開発造成地としては良好な草原が維持されている。



○斜面緑地にはチガヤ群落やススキの株も比較的多く点在している。

↑ 林縁部に見られたテリハノイバラ



○谷部の農地跡（現在は植木圃場などに利用されている）の畔草地には、ワレモコウが群生しており、開発以前の環境を伝えていると考えられる。



○ワレモコウのほか、ツリガネニンジンやコマツナギなどの植物も多く見られ、周囲が新しい住宅地とは思えない植生である。



○農地跡の奥には雑木林に囲まれたため池も見られた。コナラなどの明るい雑木林だが、すぐ向こうはゴルフ場の敷地になっている。

3. 保全施策の提案

(1) 現地調査結果のまとめ

今回の調査対象地（喜志、新堂、甘山周辺）は、いずれも周囲が住宅地造成などで開発されたあとに島状に残された緑地となっている。そのため造成後の荒地や草地も多く見られるが、美具久留美魂神社の照葉樹林や甘山の畔草地、市民運動で守られた星ヶ池・辰池の水辺など良好な植生があり、その周囲にはクヌギ・コナラの雑木林が広がるなど、かつての里山の自然環境が奇跡的に残されている。しかし美具久留御魂神社の自然環境保全地域以外は特に注目されてはならず、小規模な緑地で周辺に公園などの公共利用地もないため、保全の手立てが難しい場所である。

<大阪府自然環境保全地域(特別地区)>

(大阪府ホームページより)

- ・指定年月日 平成元年 4 月 28 日
- ・指定位置 富田林市宮町の一部（美具久留御魂神社所有地）
- ・保全区域 社屋に隣接する山林 2.16ha（うち特別地区 2.16ha）
- ・指定理由

富田林丘陵の東辺部に位置し、コジイを主とする極相状態に近い広葉樹林。林内は樹齢 200 年前後のコジイをはじめ、ナナメノキ、アラカシ、サカキなどがみられ、丘陵地の典型的なシイ林となっており、河内地方では最古の神社の一つとされている。また、近年、「河内ふるさとのみち」も整備され、緑と歴史に包まれた場としても広く府民に親しまれている。このように、都市近郊に残る貴重な自然環境が残っている一方、周囲は開発が進んでおり、今後一層の保全が必要であることから、大阪府自然環境保全地域に指定し、保全を図っている。

- ・アクセス 近鉄喜志駅南西へ徒歩、約 1 km

<星ヶ池・辰池の自然環境保全>

(「フィールドだより喜志」より)

1997 年 6 月に行われた、大阪府南河内農と緑の総合事務所耕地課との話し合いで、護岸工事にあたり、以下のようなことが確認されている。

- ① 星ヶ池の西側は現状のまま残す。
- ② 貴重な植生ではないが、水辺特有の植生が狭い区域にコンパクトに見られる。
カイツブリの繁殖やカワセミの生息が確認されている。
- ③ 水辺の区域は、表土の盛土から再生しているヨシやガマを活用する。
法面上部は水辺から離れることと大雨での崩壊の可能性を考慮して植える植物を決める。
- ④ 池周囲の道路は、管理のための作業道路で一般開放はされない。
- ⑤ 図面にあった「八ツ橋」は池の管理のためで他の方法でも可能なため、作らない方向で検討する。

一方、桃花塾敷地内の里山林は、大阪さともり事業の整備計画として、「奥山保全林区域」「山林保全林区域」「樹木保全整備区域」「人間立入禁止保全区域」などが設定され、大径木の伐採や侵入竹の除去作業などがすでに実施されている。これらの作業は施設の担当スタッフが中心となって実施するほか、月 1 回のボランティア活動が大阪芸術大学と連携して行なわれている。また今後は、炭焼きや薪などの木質バイオマス利用、森林空間を利用する多様なプログラムなどの事業展開が予定されている。

(2) 自然保全手法の検討

●自然環境保全地域周辺の樹林：バッファゾーン管理

美具久留御魂神社の保全地域内は、工作物の新改増築や土地の改変等が規制され、また古墳群もあることから、侵入した竹林の除去などの一定の管理がされているようだが、周辺の竹ヤブや雑木林は放置状態である。

保全地域内への影響(竹の侵入等)を軽減し、照葉樹林と連続する良好な雑木林を維持するため、周囲の樹林地を保全地域を取り囲むバッファゾーンとして位置づけ、一定の管理(竹林伐採、間伐、草刈り等)を行うことが望まれる。

また、自然環境保全地域は大阪府指定であることから、現在は富田林市としての積極的な施策は行われていないが、地域指定の重要性や周辺環境の保全への理解促進のため、市のウェブサイトでの紹介などを行いたい。

- 市や市公園緑化協会等のウェブサイトでの情報提供
- 自然環境保全地域の観察会等による普及啓発
- 周辺樹林の管理(竹林伐採、枯木・倒木の処理、間伐、草刈り等) など

●ため池群の自然環境調査と周辺樹林地の管理

星ヶ池、辰池については1997年、護岸整備工事に対して地域住民から自然環境保全の要望が寄せられ、当時の行政担当者(大阪府、富田林市)や地元水利組合との話し合いの結果、一部護岸の現況維持や表土保全、ヨシの移植など自然に配慮した整備が実施された。現在の良好な水辺環境は15年前の取り組みの成果の現れと言え、今後も引き継いでいきたい地域の資産となっている。15年前に見られた野鳥のデータも残されているため、あらためて調査観察等を行ない、環境の質が劣化していないか比較しながら環境維持の努力が望まれる。

一方で谷奥の新池、ウサイ池、七廻り池は周辺の丘陵斜面のほとんどがクズで覆われており、自然環境としては非常に多様性の低い状況である。クズを除去することは困難だが、これ以上周囲に広がらないよう周辺の樹林地の管理などを促進したい。

- 現況の自然環境調査と15年前のデータとの比較検討
- 調査結果を踏まえた管理手法(草刈り、水質改善、水辺植生の維持等)
- 周辺の樹林地の管理(草刈り等によるクズ抑制) など

●廿山の畔草地：農地所有者の協力

山すそのかつての田畑は、現在は造園用の圃場などに利用され、畔の草地も所有者によって定期的な草刈りなどの管理が行われているようである。そのため水田耕作が行われていた頃と同じ良好な草地環境が維持されていると考えられる。

しかしながら管理している所有者が、希少な草地環境であるとの認識を持っているかは定かではなく、圃場等の利用が止まると管理もとどこおり、現在の環境は失われてしまう。小規模な民有農地であるため保全施策や規制を実施することは困難であるが、希少な自然が残されているという情報を所有者に伝えることにより、管理の継続を促進したい。

- 所有者の協力による自然環境のモニタリング調査
- 市民参加の観察会の開催 など

●大阪さとり事業の推進と展開

桃花塾が助成対象となっている大阪さとり事業は、平成 25～27 年度の 3 ヶ年で雑木林や人工林、竹林の整備および活動を実施するもので、桃花塾の里山整備は当面、本事業で進められる。施設関係者はもとより、連携する NPO や大阪芸大の関係者の意欲も高く、住宅内に取り残された里山林保全の取り組みとして大いに期待される。対象地が民間施設の敷地内で通常は一般立入ができないこと、施設創立の理念が人と自然の共生を目指していることなどの面からも自然環境保全をすすめやすいと言える。

将来的には 3 ヶ年の事業終了後も保全管理が継続され、動植物の棲息環境にも配慮した、より質の高い自然環境を創出することが望まれる。そのためには、すでに検討されている施設内部での本来事業との連携や、施設利用者との共存に配慮しながら外部からの人的支援を得ることも重要であると考えられる。また、さとり事業の窓口である大阪みどりのトラスト協会の協力を得て、林内に棲息する動植物の調査および希少種の保全対策などをぜひ実施したいところである。

- 大阪さとり事業の推進 (3 ヶ年)
- 施設の本来事業との連携
(木質バイオマスの温室利用、堆肥・竹炭の農地利用、建築土木材料等)
- 外部からの人的支援 (ボランティア、他団体との協働など)
- 林内に棲息する動植物の調査および希少種の保全対策
(大阪みどりのトラスト協会に協力要請) など

大阪で里山対策助成事業第一号として採択された社会福祉法人桃花塾(岩崎正子理事長、大阪府富田林市喜志)で事業発足式が11月4日に行われました。

大阪さとり地域協議会の山本事務長、またその母体である(公財)大阪みどりのトラスト協会(石井実会長)、桃花塾の関係者が出席の下に神事が執り行われ、事業の安全を祈念し、木製記念碑が設置されました。式典後の懇談会では新事業の今後の展開などについて意見を交換しました。

とくに桃花塾での事業は里山保全の上で様々な要素を含んでいることからモデル事業となることが期待されています。



事業で活躍が期待されるチッパー。竹や間伐材のチップを作ります。

トラスト協会 石井会長(左)と桃花塾 岩崎理事長(右)

(「みどりのトラスト」第 76 号より 2013 年 12 月 大阪緑のトラスト協会発行)

< 協議会参加団体の活動報告 >

富田林の自然を守る会

以下の事業に取り組んだ。

(1) 会独自事業、 モニタリング1000 (植物およびチョウ; 大阪自然環境保全協会の方々の協力のもとに実施した)、 果樹園の管理 (クリ園、ミカン園、果樹の丘)、 金剛コロニー梅園草刈り、 平日の里山管理作業 (第1金曜日; シニア自然カレッジから多くの方々の参加があった)。(2) 協議会主催事業 里山ホリデー、 自然観察会 (植物観察、水の生き物観察、昆虫ウオッチング、野鳥観察)、 米づくり (田植え、稲刈り、稲こぎ)、 野草を食べる会、 里山クラフト、 どんどこもちつき、 中野町竹林管理など。(3) 地域との協働事業、溜池の土手、水路脇などの草刈り (水利組合、初芝富田林校、NICE、富田林の自然を守る会)。(4) 大阪自然環境保全協会との共同事業、 自然環境市民大学 (第11期)、 自然観察インストラクター養成講座、 いずみ市民生協「田んぼと生き物体験」。(5) NICE (国際ワークキャンプセンター) との共催事業 国際ワークキャンプ、 週末キャンプ、 香港グループワークキャンプ、 高槻高校生徒会グループキャンプ。(6) アクティブシニアあふれる大阪事業 (大阪府福祉部高齢介護室の講座)、 入門講座 (「里山保全と生物多様性」の講義、奥の谷の里山見学、雑木林の下樵り実習、ワークショップ)、 実践講座 (人工林の遊歩道兼作業路の造成作業)。(7) 大阪経済大学ボランティア講座、 稲刈りに参加 (12人)、 体験実習 (2人が稲こぎ、里山ホリデーなどに参加)。(8) その他の外部団体の行事などの受け入れなど、 保育園遠足 (なかよしすみれ保育園、東桃谷幼児の園、高鷲保育園)、 彼方小学校1,2年生野外授業、 大阪シニア自然カレッジ講座 (七草粥)、 自然環境市民大学OB会、 シニア文化塾自然観察講座、 錦織幼稚園里山散策、 市子連里山体験、 南河内ほわ~っと流域フォーラムに参加 (石川河川公園事務所)、 南河内ほわ~っと流域こどもまつりに参加 (府営河内長野公園)、 新堂小学校6年生ボランティア授業 (中野町竹林)、 「チャリティーネット森が好き」に登録。(9) 助成金当、 森林・山村多面的機能発揮対策交付金 さともり事業 (林野庁; 富田林里山の会を設立)。(10) その他、 チェンソー2台、草刈り機2台を購入 (さともり交付金)、 野外休憩所 (食堂) 設置、 ミカン小屋への冷蔵庫の設置、 生物多様性富田林戦略作成に向け議論を開始 (協議会)。



間伐材で作ったテーブル

連絡先: 田淵武夫 〒584-0024 富田林市若松町4-16-21 TEL/FAX 0721-24-7960

金剛の自然環境を守り育てる会

絶滅危惧 類に指定されているオオタカの生息が近隣の森で確認されたことから、開発に曝されるオオタカの餌場を復活させようと、2007年4月寺池台3丁目の住民が中心となって立ち上げた。地元の篤志家から提供された田畑で有機栽培に取り組んでいる。錦織公園の西側に残る里山の保存に取り組むことで次の世代に豊かな自然環境を残していきたいと思っている。

主な活動は寺池台小学校5年生といっしょに米作りの体験学習で、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、唐箕作業、しめなわ作りと一連の米作りを通して自然環境の大切さを学んでもらえるよう努力している。畑には春にジャガイモ、秋はダイコンを植え付け、会員にわずかばかりの楽しみを届けている。

里山の風情を残している3号公園内の笹刈り、保全の取り組み、遊歩道の花壇の土壌改良や花苗の植え付け、清掃などを定期的に行っている。



連絡先: 喜田光子 584-0073 富田林市寺池台3-15-10 TEL/FAX 0721-28-473

竜泉・里山クラブ

「竜泉・里山クラブ」は、自然環境保全と資源の循環型利用及び果樹園の作業、体験学習講座等を目的として1998年4月に錦織公園自然友の会より別組織となりました。現在会員数38名。当クラブでは、遊び心を大切に楽しみながら、自己責任において、体力に合った活動をして地域に貢献する。会員相互の親睦をはかり、地域の自然との調和を図りながら自然をより豊かに育み、また地域の果樹園のお手伝いをし、地域との交流を深く進めてまいります。地域住民及び子供たちに体験学習講座を設けることにより、自然との関わり方を経て自然環境教育に役立つものと思い、その知識を得ることにより動植物との共生及び資源の大切さを知ることができる。

主な活動内容 竹林・雑木林の間伐及び下草刈り。小中大学生、一般市民の体験学習講座。

竹木炭焼

竹酢液作り、みかん采果作業、枝焼作業、自然材料による工作、クリ栽培、シイタケ栽培、植樹等

活動本拠地の施設 横型改良窯2基、土窯1基竹酢液蒸留釜1基、高熱窯1基、風力発電1基

太陽光発電、雨水浄化設備、

体験学習及び講座実績

主な団体：シニア自然大学環境科、
西大和学園中等科、富田林の自然
を守る会、千早赤阪村森林組合

活動日 毎週水曜日、第2・4土曜日

9:00～15:00

主な活動場所 富田林市竜泉

事務局 〒589-0022

大阪狭山市西山台3-3-14

藤田貞夫 /fax 072-366-0995



富田林勤労者山岳会「嶽の会」

* 富田林の自然を守る市民運動協議会に参加する団体としての活動

2014年1月26日朝から雨模様のややこしい天気。午前9時から約一時間の雨宿りの後、8名(労山4名、一般参加4名)の参加で、間伐林の中の作業路兼自然観察路を作りました。杭作り班と階段作り班に別れ、約2時間の作業で11の階段が出来ました。(写真左：杭作り作業)

昼食は豚汁と釜戸炊きご飯。たき火を囲んで楽しく食事・交流ができました。

* その他の活動

2013年度は、6月2日金剛山のクリーンハイキングのほか、21回の山行を計画・実行出来ました。(写真右：金峰山山頂)

(自然保護・里山担当 上角 敦彦)



特定非営利活動法人 里山倶楽部

里山倶楽部は、「好きなこととして、そこそこ儲けて、いい里山をつくる」をコンセプトとして、里山の保全管理や環境教育に関するさまざまな事業を行っています。会員は約200名。活動グループのひとつ「とんびくらぶ」では、龍泉寺近くの果樹園で里山初心者が楽しみながら草刈りなどの手入れや果物の収穫などを行っています。



里山日和の活動風景

< 講座および自由参加活動 >

里山日和（里山体験） 弘川千年の森（協働事業） とんびくらぶ（山仕事体験） 里山キッズクラブ（子供対象） 桜とりすの森（ニュータウンでの緑化活動） もりあん（安全技術技能講習） 源流米パラダイス（棚田の保全活動）

< 生産販売事業 >

里山事業部（森林作業請負、炭・薪等の生産販売）
里山倶楽部自然農場（無農薬米、野菜等の生産販売）

< まちづくり・調査研究活動 >

里山バイオマスエネルギー事業部（薪炭林のエネルギー化研究）
里山環境教育オフィス（企業・行政との協働事業、ワークショップ等の受託事業）

連絡先：寺川裕子，〒584-0024 富田林市若松町4-20-6，TEL/FAX 0721-25-3128

石川自然クラブ

石川自然クラブは、石川の自然について学び、考え、調べ、遊び、行動することを通じて、石川本来の川の流れや河原の自然環境をとりもどし、地域の暮らしと共生する自然豊かな川づくりを行なうことをめざして、以下のような活動を行っています。

石川の自然や生きものについての学習・観察・調査

子どもたちが石川の自然を体験できる機会の提供

石川の自然についてのPR活動

石川の自然にふさわしい整備や管理についての共生型技術の検討・提案

地域の人たちや市民団体、行政や専門家との協働の場づくり

石川流域におけるネットワーク活動

石川の自然についてパネル展示や標本等で紹介する「石川流域フォーラム」や、植物・魚・昆虫・動物・野鳥の自然観察会、「石川子ども自然隊」を開催しています。また、「石川自然公園自然ゾーン計画運営協議会」では、行政や地元町会と協働して石川の自然についての様々な提言や取組みを行っています。



石川の生きもの講座&自然観察会

連絡先：笠原英俊，〒584-0086 富田林市津々山台1-5-1，TEL/FAX 0721-29-7894

2013 年度協議会事業報告

2013 年度に協議会が行った活動を以下のように分類することができる。

(1) 自然環境保全活動（生態系保全活動）

①雑木林の林床管理（下樵り）、②人工林(スギ・ヒノキ林)の管理（間伐、枝打ち）、③竹林管理（雑木林および人工林へ侵入したタケの除伐、竹林としての整備）、④観察路づくり（作業路を兼ねる）、⑤草地管理（休耕田とその畦、ため池の土手などの草刈り、休耕田の水路整備）、⑥水生生物の保護と育成（水の生きもの池の管理など）、⑦中野町二丁目の石川段丘崖の竹林整備など。

(2) 文化的行事（自然とふれあい、自然と親しむ活動、自然への理解を深める活動）

①竹炭焼き、②シイタケ栽培、③果樹栽培、④米づくり、⑤野菜づくり、⑥自然観察（植物・昆虫、野鳥、水生生物）、⑦野草を食べる会、⑧里山クラフトづくり（つる細工）、⑨どんど・もちつきなど。

(3) 調査・提言活動、冊子の発行

①自然環境活用調査、②「富田林の自然」誌の発行。

(4) 自然保護活動への支援・援助

①国際ワークキャンプなど。

これらの活動について具体的に以下に報告する。



人工林の間伐

1. 自然環境保全の活動

(1) 里山保全

協議会の行事としては「富田林里山ホリデー」、「自然観察路の整備」および「里山作業と交流会」において里山管理作業を実施した。開催日、参加人数、作業内容等については表1にまとめた。なお、里山管理作業は富田林の自然を守る会（自然を守る会）が毎月第一金曜日に独自に実施した「里山保全作業」や自然を守る会が外部団体を受け入れ、あるいは共催で実施した「国際ワークキャンプ」、「NICE 週末ワークキャンプ」、「自然環境市民大学(大阪自然環境保全協会)」などでも実施した。

表1 奥の谷における里山保全活動

回	行事名	開催日時				参加人数		参加費 (小学生以下は無料)	作業内容
		年	月	日	時	大人	子ども		
1	里山ホリデー	2013	4	21	10:00~13:00	16	0	200円	階段づくり、竹の伐採、薪割り、ミツバチの巣箱設置
2	里山ホリデー	2013	5	19	10:00~13:00	—	—	—	雨天中止
	里山ホリデー	2013	7	14	10:00~13:00	18	1	300円	スギ・ヒノキ林の間伐、観察路補修(NICE13人)
3	里山ホリデー	2013	9	22	10:00~13:00	7	2	300円	スギ・ヒノキ林間伐、皮むき
4	里山ホリデー	2013	12	1	10:00~13:00	7	0	300円	スギ・ヒノキ林間伐
5	里山作業と交流会	2013	12	15	10:00~13:00	39	3	300円	ミカンの収穫、交流会(NICE15人)
6	観察路整備	2014	1	26	9:00~13:00	8	0	300円	スギ・ヒノキ林の階段づくり(11段)
7	里山ホリデー	2014	2	23	10:00~13:00	33	2	300円	雑木林の下樵り(NICE24人)
8	里山ホリデー	2014	3	16	10:00~13:00	17	9	300円	シイタケ植菌(NICE香港週末国際キャンプと合流)

(2) 中野町の石川段丘崖の竹林整備

2012年度に引き続き、竹の伐採、チップーによるタケのチップ化、東側の法面および西側の平坦地の草刈り、遊歩道づくりなどを行なった。協議会主催の行事としては表2のように実施した。なお、この事業は協議会主催事業のみでなく、富田林の自然を守る会の有志により原則として毎週月曜日にチップー作業などを実施している。また、12月12日(木)には新堂小学校6年生のボランティア授業を受け入れた。

2. 文化的行事(自然に親しむ行事)

文化的行事の実施日、参加人数などを表3に示す。

(1) 春の野草を食べる会

みかん小屋周辺の野草を摘んで調理して食した。

(2) 自然クラフト(つる細工)

午前中は山に入りフジ蔓、アケビ蔓などを採取し、午後は籠やリース作りを行なった。子どもたちはネザサを使って紙鉄砲を作って遊んだ。

(3) どんどもちつき

最初に書き初めを行い、続いて、どんど焼きを行った。その後もちつきを行い、きな粉餅、あんこ餅、おろし大根餅などを作り、参加者みんなで楽しく食べた。餅は2升臼を5臼でついた。どんどの準備は、1月11日(土)に、富田林の自然を守る会の世話人などで行った。



昆虫観察会

(4) 米づくり体験

奥の谷の水田約300㎡を石垣氏から借地し、米づくりを実施した。協議会の行事としては①田植え、②稲刈り、③稲こぎ(脱穀)を行なった。なお、8月2日(金)にいずみ市民生協の「田んぼと生き物体験」の行事を富田林の自然を守る会が受け入れられないその中で田の草取りを実施した。また、水田の耕耘等田植えの準備、水の管理などは富田林の自然を守る会の世話人で行なった。



田植え

表2 中野町竹林整備作業

回	開催日時					参加人数		作業内容
	年	月	日	曜	時	大人	子ども	
1	2013	4	14	日	9:00~12:00	11	0	入り口階段の整備、上部平坦地の倒木の伐採、伐採竹の処理、チップの持ち出し、(午後植生調査)
2	2013	5	27	月	9:00~12:00	11	0	西側平坦地の草刈り、チップー作業、枯竹等の伐採、外来植物の除去、新竹・タケノコの除伐、
3	2013	6	2	日	9:00~12:00	5	0	タケノコ採り、チップの袋詰め、昼食はタケノコご飯(タケノコ狩り、タケノコご飯の行事を予定していたが、当日は新堂小学校の運動会と重なったため子どもの参加がなかった)
4	2013	7	16	火	9:00~12:00	7	0	西側平地のタケのチップー作業、事務所裏の草取り
5	2013	9	20	金	9:00~12:00	5	0	台風による倒竹の処理、チップー作業
6	2013	10	27	日	9:00~12:00	5	0	チップー作業、伐採竹の玉切り
7	2013	11	11	月	9:00~12:00	3	0	チップー作業、伐採竹の玉切り、竹の運搬(奥の谷へ)
8	2013	12	16	月	9:00~12:00	3	0	チップー作業、伐採竹の玉切り
9	2014	1	19	日	9:00~12:00	7	2	チップー作業、竹の伐採、竹の運搬(奥の谷へ)
12	2014	2	17	月	9:00~12:00	5	0	雪による倒竹の処理
11	2014	3	23	日	9:00~12:00			

表3 文化的行事(奥の谷)

回	行事名	開催日				参加人数		内容	備考
		年	月	日	曜	大人	子ども		
1	春の野草を食べる会	2013	4	29	月	50	14	ヨメナご飯、ヨモギ団子、ノビルのぬた、セリのおひたし、タケノコの木の芽あえ、焼きタケノコ、タンポポ、ノアザミ、ツリガネニンジンなど種々の野草の天ぷら。	
2	米づくり体験								
	①田植え	2013	6	15	土	29	11		
	②稲刈り	2013	10	19	土	20	4	UPS15人、大阪経済大学12人が参加	
	③稲こぎ	2013	11	9	土	26	9		
3	里山クラフト	2013	11	23	土	18	3	つる細工、子どもは竹の紙鉄砲づくり	
4	どんどもちつき	2014	1	12	日	31	23	書き初め、どんど焼、もちつき	

3. 調査・研究・提言活動など

(1) 自然観察（植物、昆虫、野鳥）

自然観察の行事日、参加人数、観察記録などを表4に示す。

①植物観察会

奥の谷の観察路を歩いて草花を中心に観察した。

②昆虫ウォッチング

昼間は捕虫網でトンボやチョウチョを捕りながら野山を歩き、網の袋に入れたバナナを木につるした。その後、自然を守る会が採集した嶽山の昆虫標本を観察した。夕食（弁当）後、山裾に設置したライトトラップに点灯した。その後、夜活動する虫が木にとまっている様子やバナナトラップに来た虫を観察しながら真っ暗な山の中を懐中電灯を照らして歩いた。

③野鳥観察会

上村賢氏（日本野鳥の会）を講師に錦織公園内の野鳥を観察した。

④水の生き物観察会

子ども達を中心に、水の生きもの捕りを行なった。メダカ、オタマジャクシ、アメリカザリガニなどがたくさん捕れて子どもたちは大喜びであった。

(2) 自然環境保全活用調査 その12

富田林市がNPO法人里山倶楽部に委託した調査に、協議会が合同して調査に参加した。次のような内容の報告書が作成された。

①緑の基本計画における「里山の緑（東部丘陵地）」の位置づけ。②「里山の緑（東部丘陵地）」の詳細調査〔(1) 調査対象地の位置 (2) 周辺の植生 (3) 緑地の現況〕。③保全施策の提案〔(1) 現地調査結果のまとめ、(2) 自然保全手法の検討〕。

表4 自然観察会

回	行事名	開催日時				参加人数		参加費	観察した生き物	備考
		年	月	日	時	大人	子ども			
1	植物観察会	2013	4	7	—	—	—	—	—	雨天中止
2	植物観察会	2013	5	26	9:00~13:00	7	0	200円		
3	水の生き物観察会	2013	6	1	9:00~13:00	9	2	200円	ケラ、ガムシsp、ヤゴsp、アメンボ、アメリカザリガニ、カラスガイ、モノアラガイ、メダカ、ヨシノボリ、アカガエル(オタマジャクシ)、トノサマガエル、シュレーゲルアオガエル(卵)	水の生き物池
4	植物観察会	2013	6	8	9:00~13:00	19		300円		
5	昆虫ウォッチング	2013	7	20	15:00~20:00	17	17	300円	ネティング: ツマグロイナゴ、ヤブキリ、オオシオカラ、カマキリsp、タマムシ、ショウリヨウバツタ、コクワガタ、コオロギsp、ゴマダラカミキリ、アブラゼミ、キマワリ、ヒメギス。バナナトラップ: コクワガタ、カブトムシ、キマワリ。ライトトラップ: コフキコガネなど。	ネティング、バナナトラップ、ライトトラップ、ムシムシランド
6	植物観察会	2013	9	6	9:00~13:00	6	4	300円	ゲンノショウコ、ツリガネニンジン、ワレモコウ、ヨメナ、ツリフネソウ、サワヒヨドリ、ノダケ、ヤマホトトギズなど草本67種、木本8種	滝谷不動尊駐車場→みかん小屋→果樹の丘→中池→滝谷不動尊旧跡→国体の尾根道→みかん小屋
7	植物観察会	2012	10	6	9:00~13:00	6		300円		
8	野鳥観察会	2014	2	9	9:00~13:00	11		300円		

(3) 冊子「富田林の自然」No. 12の発行

下記の内容で、「富田林の自然」誌No. 12を発行した。

○「自然と共生する社会の実現」に向けた、ひたむきな実践活動（浦 俊樹：富田林市 産業環境部 理事兼みどり環境課長）。 ○富田林の里山指標生物（グラビア）。

○草地生態系について（畠 佐代子）。

○「里山の緑（東部丘陵地）」の詳細調査～H24年度「自然環境保全活用調査その12」報告書より抜粋～。

○2013年度 協議会事業報告。

○協議会参加団体の活動紹介。

(4) 自然環境保全条例、生物多様性富田林戦略

富田林市緑の基本計画で制定等の検討が掲げられている「富田林市自然環境保全条例」および生物多様性基本法で策定がうたわれている「生物多様性地域戦略」の策定に向けて議論した。

4. 自然保護活動への支援・援助

(1) 国際ワークキャンプ

「国際ワークキャンプ大阪太子・富田林2013」が、富田林の自然を守る会、NICE（日本国際ワークキャンプセンター）の共催、大阪自然環境保全協会太子町葉室里山クラブの協力で、8月17日（土）～31日（土）の間、奥の谷と太子町山田で実施された。8月23日（金）午後～26日（月）午前の間は太子町に移動したが、この間雨天が続きワークは全くできなかった。富田林では8月17日（土）～23日（金）午前は奥の谷でスギ・ヒノキ林の間伐を、26日（月）午後～31日（土）は中野町で竹林の整備を行なった。

8月17日（土）に歓迎会が行われ、富田林市から産業環境部部長、みどり環境課長、みどり公園係長、担当職員が来賓として参加、市長からのメッセージが紹介された。外国人6人（ロシア2人、イタリア、フランス、ドイツ、トルコ）、日本人5人（愛知、埼玉、千葉、兵庫、群馬）の11人が、奥の谷の小屋（みかん小屋）、太子町山田の山小屋、中野町の関西NICE事務所に宿泊した。ワーク以外にはスライドショー（奥の谷の四季）、ディスカッション（各国の環境問題）、クラフトづくり（竹細工）、じないまち見学を行った。USPからの助成によりソーラー発電、バイオトイレが完備して初めての国際ワークキャンプで、これまでにない快適なキャンプ生活となった。その他スタッフを含め、地元などから、延べ約155人（富田林）の参加があった。協議会からキャンプ運営のための援助を行った。

(2) 参加団体への支援

5. 会議

2013年度（平成25年度）の役員会および総会を以下日程で開催した。

(1) 役員会

①4月19日（金）、②5月17日（金）、③6月21日（金）、④7月19日（金）、⑤9月20日（金）、⑥10月18日（金）、⑦11月15日（金）、⑧12月20日（金）、⑨1月24日（金）、⑩2月21日（金）、。

（いずれも16:00～18:00但し1月24日は10:00～12:00）。

(2) 総会

3月26日（水）午後7時～9時、庁議室。

富田林の自然を守る市民運動協議会

富田林の自然を守る会
特定非営利活動法人 里山倶楽部
石川自然クラブ
富田林勤労者山岳会「嶽の会」
金剛の自然環境を守り育てる会
竜泉里山クラブ

オブザーバー
日本国際ワークキャンプセンター関西事務局（関西NICE）

事務局
産業環境部みどり環境課
〒584-8511 富田林市常盤町1番1号
TEL 0721-25-1000（内431）

富田林の自然

2014年3月 発行
発行 富田林の自然を守る市民運動協議会